

天正遣欧使節とは —400年前、若者たちは未来を見ていた—

1582年(天正10年)、イエズス会の宣教師ヴァリニャーノの構想により、九州のキリシタン大名の名代としてローマに派遣された4人の少年たち。

彼らの旅は、日本とヨーロッパの出会いの始まりでした。
その歴史の背景と、当時の日欧の繋がりに思いを巡らせます。



天正遣欧使節肖像画(京都大学附属図書館所蔵)

日時 | 2026年11月28日(土) 午後1時30分~3時30分(開場 午後1時)
場所 | 藤沢市鶴沼市民センター・くげぬまセットホール | 参加費 | 無料
定員 | 80名(先着順) | 申込み | 不要

講師プロフィール

伊藤 玄二郎 (いとう げんじろう)

エッセイスト、かまくら春秋社代表。鎌倉市出身。中央大学法学部卒。

河出書房新社を経、永井龍男、小林秀雄などの協力を得て1970年、月刊「かまくら春秋」を創刊。NTT全国タウン誌大賞を受賞。ポルトガル国立リスボン工科大学客員教授、早稲田大学客員教授、関東学院大学教授などを務める。ポルトガル政府よりエンリケ航海王子勲章コメンダドル章、神奈川文化賞、正力松太郎賞などを受賞。著書に「風のかたみ」「末座の幸福」「氷川丸ものがたり」など。



歴史と文化の架け橋として
執筆・研究・交流活動を続ける
伊藤玄二郎氏。

バチカンにてローマ教皇フランシスコに
拝謁。400余年の時を超えて
今なお輝く日欧交流の物語を、
深い見識とともに紐解きます。